

若越郷土研究総索引(二)

自 五六号(第一一巻一号)
至一四五号(第二五巻六号)

A 号別総目次

数字は各巻ごとの通し頁数

一一巻 (昭和四一)

五六号	橋本左内の洋学観	三上 一夫	一	橘曙覧の伝記資料(二)	武藤 正典	六四	心に――	三上 一夫	一九
	文明五年の三帖和讃	永江 秀雄	一	書評 穴馬の民俗	杉原 丈夫	六七	蘭医藤野昇八郎とその一族	齋藤 槻堂	三一
	地藏信仰	伊東 尚一	七	六〇号	佐久 高士	六九	大野地方の抱瘡「湯かけ」	岩治 勇一	三二
	若狭三方郡の年中行事とその背景(二)	小林 一男	一〇	浮囀と潤役	刀禰勇太郎	七一	の遺風について	岩治 勇一	三二
	高浜町立石の古代住居跡について	吉田 自然	一四	橋本左内の外交観についての一考案	三上 一夫	七八	「国事叢記」中に観られる和蘭甲比丹献上物考	岩治 勇一	三五
五七号	北国船―北前船以前―	刀禰勇太郎	一七	忠直キリシタン説批判	杉原 丈夫	八三	今はなくなった正月行事のあれこれ	中道太左衛門	三八
	芭蕉と坦庵	石川銀栄子	二五	山本正伯家旧蔵福井県医学関係資料について	齋藤 槻堂	八六	越前藩の強兵策について―海防対策と洋式兵器工業を中心にして―	三上 一夫	四一
	書評 越前の民話	佐久 高士	三〇	六一号	W・E・グリフィス			齋藤與次兵衛	五四
	新刊紹介			大名政府	杉原丈夫訳	八九	快傑新左エ門顕彰伝	齋藤與次兵衛	五四
	泉村民話集妙春夜話	齋藤 槻堂	三一	若狭新庄の手毬唄	小林 一男	九七	書評 川端太平著「松平春嶽」を読んで	佐久 高士	五九
五八号				太田新保の七夕行事	齋藤 槻堂	一〇〇			
青山祭		齋藤 槻堂	三三						
				一二巻 (昭和四二)					
				福井城下寺社資料	松原 信之	三五	明治の越前大一揆について		
				廃村の村「上津、大和田」について	桜井 帯刀	四七	―反封建斗争の解明を中		
				書評 棗村誌	佐久 高士	五一	心に――	三上 一夫	一
				五九号			沖の石(遺稿)	錦 耕三	一五
				若狭高浜の年中行事	杉本 壽	五三			
				飢饉の村落史料	白角堅次郎	五九	由利公正の富国策について		
				法雲寺蔵「尊号真像銘文」について			―藩政改革の財政面を中		
				橘曙覧の伝記資料(二)	武藤 正典	六四	心に――		
				書評 穴馬の民俗	杉原 丈夫	六七			
				六〇号	佐久 高士	六九			
				浮囀と潤役	刀禰勇太郎	七一			
				橋本左内の外交観についての一考案	三上 一夫	七八			
				忠直キリシタン説批判	杉原 丈夫	八三			
				山本正伯家旧蔵福井県医学関係資料について	齋藤 槻堂	八六			
				六一号					
				大名政府	W・E・グリフィス				
				若狭新庄の手毬唄	杉原丈夫訳	八九			
				太田新保の七夕行事	小林 一男	九七			
					齋藤 槻堂	一〇〇			
				一二巻 (昭和四二)					
				横井小楠の富国策について					

―藩政改革の路線設定へ の一展望―	三上 一夫	六九号	橋本左内の農民観について	三上 一夫	二二三	幕末における重商主義的論 策について―福井藩を中 心に―	佐久 高士	八八	
再び天保飢饉と餓死者数に ついて	佐久 高士	七一	東京大学史料編纂所架蔵 「福井県史料蒐集目録」	岩井 弘一	三六	増補海上砲術全書・増補海 軍砲術全書について	三上 一夫	八九	
六六号	竹内 真一	八七	の紹介	岩井 弘一	三六	増補海上砲術全書・増補海 軍砲術全書について	岩治 勇一	一〇五	
福井藩解剖記録補遺	桜井 帯刀	九三	七〇号	安藤 武彦	四一	東京大学史料編纂所架蔵 「福井県史料蒐集目録」	岩井 弘一	一〇九	
高浜町在の民家について	安藤 武彦	九八	斎藤徳元年譜考―若狭居住期 を中心に―	安藤 武彦	四一	東京大学史料編纂所架蔵 「福井県史料蒐集目録」	岩井 弘一	一〇九	
東廻・西廻海運関係地巡行 回想記―「日本海海運史の 研究」の紹介を兼ねて―	杉本 寿	一〇〇	漆掻き出稼ぎの人数につい て―史料の中の数字は信 用できないものか―	刀禰勇太郎	六〇	一向一揆史料断簡文書の発 見について	松原 信之	一一六	
鷗翼搏てども師は永劫に帰 らず―古田良一先生を追 憶して―	渡辺 慶一	一〇四	書評 刀禰勇太郎著・わが 郷土河野村	佐久 高士	六六	立碑所感	松原 信之	一一六	
六七号	幕政動揺期の諸問題―越前 藩の財政難を中心に―	三上 一夫	七一号	東京大学史料編纂所架蔵 「福井県史料蒐集目録」	松平 永芳	六七	郷土史の研究さかえ社会科 の研究衰える―ある社会 科研究会を傍聴して―	刀禰勇太郎	一二四
書評 丸岡町史	佐久 高士	一二七	の紹介(承前)	岩井 弘一	六九	一四卷 (昭和四四)	刀禰勇太郎	一二四	
一三卷 (昭和四三)	六八号	越前東御坊と百ヶ寺騒動	再び漆かき出稼人の人数に ついて	杉本伊佐美	八四	福井県の気象方言(一) 一農民の記録よりみたる明 治初年の改革とその村の 状況	藤本 良致	一	
大野高等学校保管の「ドー フ・ハルマ」の蘭文跋文 について	岩治 勇一	一八	書評 青園謙三郎著「よみ	永江 秀雄	八六		舟沢 茂樹	八	

若越郷土研究総索引(二)

若越郷土研究総索引(二)

七五号	南蛮外科栗崎家系譜と越前栗崎家について	竹内 真一	二二三	伊藤慎蔵と大野藩	天野 俊也	一一三	府中鍛冶株仲間 <small>ホオリ</small> の統制・融和機能	齋藤 嘉造	六五	
七六号	京都と高浜について	桜井 帯刀	四〇	福井藩初期の知行高	杉原 丈夫	一三二	海辺の修験者 <small>ホオリ</small> 「祝部」について—三方郡美浜町宇波 <small>ウツ</small> 西神社を中心とする神事と民習—	坪内 晋	七七	
	日能一座の百韻—平野末吉道節興行—			一五卷 (昭和四五)						
	福井県の気象方言(二)	石川銀栄子	四五	篠尾の心礎	野村 英一	一	八四号	若越の轡轡師	杉本 寿	八九
	キリシタン研究の検討	藤本 良致	五〇	明治初年越前大一揆について(下)—その経過と特	三上 一夫	七	「荒島山旧宮縁記」について	藤本 良致	九三	
	地域開発と遺跡の保護	吉川 俠治	五四	質の解明を中心に—	久我 元	一九				
	七七号	沼 弘	六〇	離任随感	佐々木 敏	二一	三度福井県史を読む	岩治 勇一	一〇三	
	明治初年越前大一揆について(上)—その経過と特			会発足当初のころ	杉原 丈夫	二二	新刊(近刊)紹介 越前漆器	佐久 高士	一〇四	
	質の解明を中心に—	三上 一夫	六三	訂正	考古福井	二二	堀保己一検校百五十年祭記念論文集	梅田日記	一〇六	
	京都今小路常楽寺と越前との関係について	松原 信之	八五	越前若狭の伝説		二二	八五号			
	刊行紹介 松平春嶽		九二	和泉・西谷 民俗拾遺	石畝 弘之	二三	第二次征長に対する越前藩の動向について—春嶽の論策を中心に—	三上 一夫	一〇七	
	七八号			木崎家の考察	赤見 貞	三八	若狭の真宗	武藤 正典	一一六	
	西街道における塩荷の宿盜について	刀禰勇太郎	九三	黒船来航と若狭湾の防備について	桜井 帯刀	四三	一六卷 (昭和四六)			
	若越における人身御供考	齋藤 槻堂	一〇四	野尻銅山と地方産業(大飯町誌の一コマ)	山口 久三	四七	山見法	杉本 寿	一	
	カタツムリの方言	藤本 良致	一一一	中井積善の印章考	岩治 勇一	六二	河野村甲樂城の山アテ	藤本 良致	四	
	新刊(近刊)紹介 邪馬台国の研究 不忘記			三国の史跡・名勝・文化財			織田地方方言集	水島 基	六	

八七号	益峰之譜	久保 雅人	一九	波多野家の先祖	早津 良規	一〇九	
	笠松一夫氏の想い出	佐々木 敏	三四	松平文庫越前国絵図(慶長 絵図)の研究(二)	笠松 重雄	一一六	若越に於ける室町時代の医 師及び金創外科について
	織田地方の言葉に出る副詞	水島 基	三七	高野真斎と真斎遺稿	山田 誠一	一二八	(二)
八八号	形容詞			一七卷 (昭和四七)			虫鹿野ノ内、永谷集落ノ経 済構造の分析
	古越前製鉄窯の研究	早津 良規	三九				推せんのことば
	「福井県福井医学校規則」 について	岩治 勇一	四七	越前藩の孝藩上洛計画につ いて―横井小楠の論策を 中心に―	三上 一夫	一	「日本海海運史の研究」 の復刊に寄せて
	光明寺村白山神社の由来記	早津 良規	五三	節分―その起源と変遷	刀禰勇太郎	一一	水運史研究の最高水準を 示す書
	近刊紹介 杉本壽著・木地師支配制度の研究 並に全国史料		五八	書評 杉原丈夫・松原信之共編	佐久 高士	二六	日本海運史研究の座右の 書として
八九号	「若狭名田荘久多川流域の 村落生活」(一)	杉本 壽	五九	越前若狭地誌叢書 上巻	佐久 高士	二六	新刊・近刊紹介 三方郡誌 継体天皇の研究
	若狭の神社文書目録	大鹿 久義	七二	松平文庫越前国絵図(慶長 絵図)の研究(三)	笠松 重雄	二七	九六号
	書評 福井県地域史研究 (二号)	三上 一夫	七八	若越に於ける室町時代の医 師及び金創外科について	笠松 重雄	二七	若狭名田荘久多川流域の村 落生活(三)
	九〇号			(一)	竹内 真一	三九	福井県に関する文献(二)
	松平文庫越前国絵図(慶長 絵図)の研究(一)	笠松 重雄	八一	新刊紹介 「福井県議会史」 第一巻の刊行	杉本 壽	四五	吉崎御坊跡(史跡指定調書)
	河野浦は国府浦	斎藤 嘉造	一〇五	九四号			水主雇入れと給銀その他
	書評 西藤島村史 織田町 史	佐久 高士	一〇七	古代製鉄窯の技術的研究	早津 良規	四七	慶長越前国絵図について
九一号				松平文庫越前国絵図(慶長 絵図)の研究(四)	笠松 重雄	五七	〇笠松氏に対する反論 やまがれことば集(一)

若越郷土研究総索引(二)

若越郷土研究総索引(二)

原検地帳について	山本 孝衛	一	「大野屋」の経営法解明と 良休の手腕について(二)	坂田 玉子	五九	鶴殿辻子戸籍帳と狐ヶ辻子 戸籍帳について	中道太左衛門	一九
越前における真宗の発展と 真宗三門徒派について	坪内 晋	九	幕末の大野・越前兩藩の蝦 夷地観―関連的把握を中 心に―	三上 一夫	七一	池田紀行	石畝 弘之	二五
織田軍の一侵攻路について	杉本伊佐美	一四	日真聖人と若越	久保 日参	八四	書評 米原正義著・戦国武 士と文芸の研究	松原 信之	三五
書評 佐久高土著・近世農 村の数的研究	三上 一夫	一六	書評 福井城下ものがたり 松ヶ鼻用水沿革史	三上 一夫	九四	―その「職工事情」をめ ぐって―		
「大野屋」の経営法解明と 良休の手腕について(一)	坂田 玉子	一七	朝倉貞景と斯波義寛との越 前国宗主権をめぐる抗争 について	松原 信之	九五	山村の社会構造(一)	黒崎 征佑	三七
鯖江藩家臣団関係史料目録 並びに解説	竹内 信夫	二七	大野藩の蝦夷地開拓の概要 (一)	天野 俊也	一〇七	山村の社会構造(二)	杉本 壽	四六
柿谷半月とその狂歌につい て	中道太左衛門	三二	二二卷 (昭和五二)			中世の遺跡経塚	杉本 壽	五七
一一八号			勅興期朝倉氏に関する二・ 三の問題点	白崎昭一郎	一	「カンコ踊り」について	武藤 正典	六七
大野盆地の古墳時代(前篇) ―北陸における地域研究 ―	中司 照世	三五	書評 杉原丈夫著・若越民 話の世界	三上 一夫	一七	御泉水邸「養浩館」の沿革 について	杉本伊佐美	七一
妙雲院日承聖人 (一六一四―一六八一)	久保 日参	四七	資料紹介 福井県下高等学校図書館郷土 資料総合目録	一八		明治の川舟について	舟沢 茂樹	七五
書評 鯖江藩政史研究会刊 政午紀行―問部詮勝領内 巡見の記―	三上 一夫	四九	一一三三号			山村の社会構造(三)	面野 藤志	八一
一一九号			新刊紹介 福井県下高等学校図書館郷土 資料総合目録	一八		書評 鯖江市史 第五卷 藩政 史料編II 鯖江藩御家人帳 (上)	杉本 壽	八五
明治、大正県歌壇の苦悶 ―雑誌「光」の発刊―	辻森 秀英	五一				史料編II 鯖江藩御家人帳 (上)	舟沢 茂樹	九〇
						鯖江市立待古墳群について ―北陸における地域研究		

二一	山村の社会構造(四)	中司 照世	九一	構造(三)——斯波氏の被	一三五号		
	日本の船絵馬——北前船	杉本 寿	九七	官構成——			
	新刊紹介 白崎昭一郎著「埋もれた王国」	舟沢 茂樹	一〇八	戊辰越後戦争と福井藩医			
	古代を追う人々		一一二	福井藩本丸御殿について			
二三卷	(昭和五三)		一〇八	福井藩札銀考(一)			
一一八号	五分市鋳物師考(一)	森田 藤則	一	書評 松原信之著・朝倉氏			
	石丸八郎を追う(越前大野			と戦国村一乗谷			
	一揆続稿)			一三三号			
一一九号	南北朝期における守護権力	坂田 玉子	九	福井城本丸御殿について			
	構造(一)——斯波氏の被			(一)			
	官構成——			書評 福井県郷土史教育研			
	朝倉氏補考	河村 昭一	一九	究会編・ぼくらの福井県			
	永建寺の無学和尚	白崎昭一郎	二九	史夜話——えちぜんわかさ——			
	一三〇号	笹尾 哲雄	三八	二四卷 (昭和五四)			
	福井藩の馬術の系譜と伊藤			一三四号			
	家	伊藤 正斌	四一	高浜町在の古社について			
	南北朝期における守護権力			福井藩札銀考(二)			
	構造(二)——斯波氏の被			永建寺の雪風和尚			
	官構成	河村 昭一	五二	書評 福井県地域史研究第			
	一三一号			八号			
	南北朝期における守護権力			田中光子著ふくい女性史			

若越郷土研究総索引(二)

若越郷土研究総索引(二)

浄盛寺梵鐘についての一考察	森田 藤則	八六	墳について	古川 登	一一	越前国における地西国(二)	小谷 正典	七九
書評 三上一夫著・公武合	舟沢 茂樹	九一	小浜本境寺蔵史料記録一覽	久保 日参	一五	稲吉保(二)	小泉 義博	八四
体論の研究	舟沢 茂樹	九一	一四一号	舟沢 茂樹	一九	一代の傑僧・朝倉暁瑞師	杉本伊佐美	九一
杉本伊佐美著・福井県の新聞史	三上一夫	九二	郷土史研究十年の軌跡	梅田 秀彦	二七	美山の中世と義経	杉本伊佐美	九二
岸・齋藤・平井著・越前の古代荘園―藁置庄遺跡の危機―	三上一夫	九二	佐久高士先生のご逝去を悼む	笹島 清治	三四	越前国における地西国(二)	小谷 正典	九五
山下英一著・グリフィスと福井	三上一夫	九三	書評 小林巖著・評論・福井の文化	三上一夫	三六	書評 白崎昭一郎著・越前若狭の古代史	笹島 清治	一〇九
桶曙覧翁短歌拾遺の控	水島 直文	九五	井の文化	三上一夫	三七	南越第五〇号	三上一夫	一一〇
高浜町の太刀振について	桜井 帯刀	一〇一	一四二号	三上一夫	三七	◆ 新刊 紹介		
「福井県教育百年史」の完結について	高氏 多美	一〇五	明治初年敦賀県今立郡下の護法大―揆解体過程の一考察	黒崎 征佑	五二	炎と轟音のなかで	福井・敦賀空襲の記録	
書評 秋田慶行著「三好得恵と自発教育」	吉川 文次	一〇八	越前大―揆覚書―坂田玉子氏の諸論著によせて―	伴五十嗣郎	五五	創価学会青年部反戦出版委員会編	B6版 二六二頁 図版 四頁	
土屋久雄編・旧金津城主溝家落城とその後	松原 信之	一一〇	竹内真一先生の御逝去を悼む	五五	五五	昭和五六年八月一五日発行	発行所 第三文明社 定価 二二〇〇円	
二五巻 (昭和五五)			書評 敦賀市史研究一号	五五	五五	本書は「戦争を知らない世代へ」という叢書の中の福井県編である。全国各県でこのような空襲記録が出版されている。この福井県編には福井空襲三七編、敦賀空襲一五編の手記が収載されている。その書名のごとく爆撃機の轟音と燃え上る市街の炎の中における生々しい体験記である。この戦火の悲惨さを、次の世代の若い人たちにぜひ語り伝えたい。		
一四〇号			藤本良致・小林一男著・生きている民俗探訪	五五	五五			
近世歌壇と曙覧の国学	辻森 秀英	一	福井 青園謙三郎著・天龍寺と芭蕉	五五	五五			
遠敷郡上中町大鳥羽城山古			寿著・日本の陶磁(10) 越前	五五	五五			
			一四三号					
			稲吉保(一)	小泉 義博	五九			
			越前大―揆覚書にこたえる	坂田 玉子	六九			
			一四四号					

B 著者索引

題名の長いものは最初の九字で切つてある。数字は巻数と頁数

著者	巻	頁	著書名	巻	頁
赤見 貞	一五	三八	木崎家の考察	一三	一八
天野 俊也	一四	一一三	伊藤慎蔵と大野藩	一三	一〇五
安藤 武彦	二一	一〇七	大野藩の蝦夷地開拓	一五	六二
齋藤徳元年譜考	二二	九八	「荒島山旧宮縁記」	一五	一〇三
徳元自筆本「塵塚誹」	一八	七三	「福井県福井医学校」	一六	四七
芭蕉と坦庵	一一	二五	谷野一栢をめぐる朝	一八	四七
日能一座の百韻	一四	四五	ラテン語オランダ語	一八	七七
和泉・西谷民俗拾遺	一五	二三	越前朝倉版「俗解八	一九	八一
池田紀行	一一	二五	美山の世と義経	二五	二七
伊藤 尚一	一一	七	若狭の神社文書目録	一六	七二
伊藤 正斌	一九	七七	越前国における地西	二五	七九
片龔記の著者伊藤作	二二	四一	越前国における地西	二五	九五
福井藩の馬術の系譜	二二	四一	水主雇入れと給銀そ	一七	一〇五
今井長太郎	二三	二二	明治の川舟について	二二	八一
三方寺について	二三	二二			
福井県史料蒐集集目録	二三	三六			
福井県史料蒐集集目録	二三	六九			
福井県史料蒐集集目録	二三	一〇九			
大野地方の抱瘡「湯	二二	三二			
「国事叢記」中に観	二二	三五			
「ドーフ・ハルマ」	一三	一八			
増補海上砲術全書増	一三	一〇五			
中井積善の印章考	一五	六二			
「荒島山旧宮縁記」	一五	一〇三			
「福井県福井医学校」	一六	四七			
谷野一栢をめぐる朝	一八	四七			
ラテン語オランダ語	一八	七七			
越前朝倉版「俗解八	一九	八一			
美山の世と義経	二五	二七			
若狭の神社文書目録	一六	七二			
越前国における地西	二五	七九			
越前国における地西	二五	九五			
水主雇入れと給銀そ	一七	一〇五			
明治の川舟について	二二	八一			
カ行					
佐久高士先生のご逝	二五	三四			
越前国絵図の研究一	一六	八一			
越前国絵図の研究二	一六	一一六			
越前国絵図の研究三	一七	二七			
越前国絵図の研究四	一七	五七			
一乗谷朝倉氏遺跡の	一八	六七			
朝倉氏の敦賀郡支配	二〇	一一			
南北朝期における守	二三	一九			
南北朝期における守	二三	五二			
久我 元	一三	一八			
久保 日参	一五	六二			
日参 元	一五	六二			
離任随感	一八	三六			
天頼軒節也について	一八	三六			
上戸成道寺の成立年	一九	四一			
朝倉義景第二夫人近	一九	六九			
妙雲院日承聖人	二一	四七			
日真聖人と若越	二一	四七			
小浜本境寺蔵史料記	二五	八四			
益峰之譜	一六	一九			
大名政府	一一	八九			
明治期福井県製糸業	一九	九七			
明治期福井県製糸業	一九	九七			
明治期福井県製糸業	一九	九七			
木津新兵衛の思想	二四	七五			
越前大い揆覚書	二五	五二			
浅羽本「日下部系図	二〇	四三			
稲吉保(一)	二五	五九			
稲吉保(二)	二五	八四			
若狭三方郡の年中行	一一	一〇			
若狭新庄の手毬唄	一一	九七			
若狭新庄の葬送習俗	一八	九五			
嫁出せ酒出せー若狭	二〇	五一			
サ行					
福井市北堀貝塚出土	二四	七〇			
青山祭	一一	三三			

